

## 学校教育相談 今後の展望

### — 今次東日本大震災前後の省察 —

学校心理士スーパーバイザー(CSP-SV)  
一般社団法人 学校心理士認定運営機構(理事・事務局長)  
日本学校心理士会「東日本大震災 子ども・学校支援チーム」  
(事務局長)

日本学校心理学会(副理事長)  
日本教育大学院大学(教授)  
大野精一

## 復興教育支援構図

- 岩手県立総合教育センター、岩手県教育委員会、岩手県の各学校や教育機関と綿密な連携を図り、教育相談コーディネーター(学校心理士)の育成や沿岸部への配置、教育相談コーディネーター研修のテキスト作成等を行う。(文科省ホームページ)
- われわれの立場→学校心理学(学校心理士)を一つの(これに加えて私の場合にはカウンセリング心理学も入る)ベースとする学校教育相談(School Counseling Services by Teachers in Japan)の専門的な研究者集団
- 今後の学校教育相談のあり方や展望を、教師による「教育相談コーディネーター」をキーコンセプトに再定義し、そのテキスト化を図る→被災地のみならず全国の学校教育相談実践にとって最重要課題として位置づけている

## 私自身の研究史

- 学校教育相談—理論化の試み—ほんの森出版 1996
- 学校教育相談—具体化の試み—ほんの森出版 1997
- 学校教育相談とは何か カウンセリング研究, 30, 1997
- 学校教育相談の実践的な体系について 広島大学教育実践総合センター・いじめ防止教育実践研究, 2, 1997
- 学校教育相談の定義について 教育心理学年報, 37, 1998
- 学校教育相談とは—School Counseling Services by Teachers in Japanの立場から 学校教育相談研究(日本学校教育相談学会), 13, 2003
- 連載・学校教育相談の実践を読み解く—体系化に向けて—「月刊学校教育相談」(ほんの森出版2003年4月号～2006年3月号)
- 書評 Donald A. Schön(1983) The Reflective Practitioner: How Professionals Think In Action. Basic Books, 374 pp (教育総合研究第5号—日本教育大学院大学研究紀要 93-98)

## 今次大震災前 学校教育相談展望

- 学校教育相談の対象領域が**拡大**  
心理面→社会面や進路面→学習面と健康面
- 学校教育相談の方法が**拡張**  
カウンセリング→コンサルテーション・コーディネーション→教育的な方法(カモモデル)
- 学校教育相談の主体が**拡充**  
教師(教諭・養護教諭等の専任教員)が行う狭義の学校教育相談と臨床教育相談の区別→保護者、スクールカウンセラー、専門機関やNPOなど地域社会における多様な援助資源(今後福祉分野との連携が重要)等を結びつけるコーディネーターとしての教育相談担当者

## 今次大震災前 学校教育相談展望

- ・ 学校教育相談担当者の共通する養成プログラムも、公的な資格も、そしてプロフェッション(職)もない→教職大学院や相談教諭、心理専門職の国家資格化(心理師)等の課題
- ・ 外に向けて大きく広がるだけでなく、これからは一つ一つ確かなものを積み重ね、それらを深化・身固めをすることが重要→学校教育相談School Counseling Services by Teachers in Japanの再定義
- ・ 東アジア圏との交流→教師を中心にした学校カウンセリング活動(本年7月4-6日香港でのThe First International Conference on School Guidance in the Chinese Communityに参加)

## 東日本大震災の取り組み(日本学校心理士会東日本大震災子ども学校支援チーム)1

- ・ 3月18日～ 東日本大震災支援ページを立ち上げ、会員安否情報掲示板・災害支援情報掲示板、支援サポートマニュアルの掲載等を行なう。NASP(National Association of School Psychologist:アメリカ学校心理士会)と連携して、自然災害後の子どものケアについての情報を収集するとともに、災害支援の専門家のコンサルテーションを受け、NASPの自然災害後の子どものケアについてのマニュアルの翻訳をし、ホームページ等に掲載
- ・ 3月30/31日 東日本大震災子ども学校支援チーム第1回会議 被災地からの現況報告・支援活動の報告・支援資料の検討・危機介入(対応)の理論と実際(NASP PREPaRE カリキュラムの学習等)

## 東日本大震災の取り組み抄録(日本学校心理士会東日本大震災子ども学校支援チーム)2

- ・ 4月19日～「震災に関する子どもや学校のサポート(資料その1)」(NASP資料の翻訳翻案に有志作成の資料を加えたもの)を制作し、被災地に送付し、ホームページにも掲載。
- ・ 6月22日～「震災に関する子どもや学校のサポート(サポート資料ver2)」(4月に作成した資料改訂版小冊子)を制作し、被災地に送付する。
- ・ 2011年6月27日～29日 宮城県教育委員会カウンセリング技術研修会への講師派遣と資料の提供
- ・ 2011年11月17日 福島県教育委員会第2回東日本大震災に伴う「子どもの心のケア」に関する研修会への講師派遣と資料の提供

## 被災地支援に関するシンポジウム

- ・ 2011/7/24 日本教育心理学会総会準備委員会企画シンポジウム 東日本大震災における「子どもと学校」の支援～学校心理士にできることはなにか～(札幌)
- ・ 2011/8/20 日本学校心理士会2011年度大会シンポジウム「危機対応と学校心理士の役割」(大阪)
- ・ 2011/10/9 日本学校心理学会第13回大会のプレ大会企画としてセミナー「被災地支援で重要なことー学校心理士緊急支援マニュアル作成に向けて」(長野)

## シンポジウムから見えてきたこと

- ・被災地における非日常的な世界で、非日常的に起こっていること（トラウマへの対応等）へのケアも大切と考える。しかし、非日常的な世界であっても日常的な行為（勉強、生活、進路等）がなされており、日常性に注目した支援（非日常世界の中の“日常の確保”）が求められている
- ・「日常性の回復」であり「子ども（教師や保護者の方々）の持つ回復力」への支援である
- ・医療・労働・福祉・教育で支援がバラバラになされている。子どもたちを中心とするトータルコーディネートを行う必要がある。

## 公的資金(文科省)による活動

- ・文科省「緊急スクールカウンセラー等派遣事業」受託(宮城県石巻市湊小学校へのスクールカウンセラーに準ずる者派遣)
- ・文科省・復興教育支援事業受託(岩手県立総合教育センター、岩手県教育委員会、岩手県の各学校や教育機関と綿密な連携を図り、教育相談、コーディネーター(学校心理士)の育成や沿岸部への配置、教育相談コーディネーター件数のテキスト作成等を行う。)

## これからの学校教育相談

- ・子どもを中核とするトータル・コーディネートされた心理教育的援助サービス
- ・心理面のみならず学習面や進路面、健康面に、さらに教育領域のみならず福祉、労働、医療等を含めた包括的で統合的な支援が求められている。
- ・この課題を達成するために学校における教育相談の中心的な担い手を教育相談コーディネーターとした新たな教育相談(学校教育相談)の再定義(構造)とテキストづくりに着手することが肝要である。

## 学校教育相談の再定義

- ・学校教育相談School Counseling Services by Teachers in Japanとは、  
児童生徒の学習面(広く学業面を含む)、進路面(針路面を含む)、生活面(心理社会面および健康面)の課題や問題、論題に対して、情緒的のみならず情報的・評価的・道具的にもサポートをするため、実践家に共通の「軽快なフットワーク、綿密なネットワーク、そして少々のヘッドワーク」を活動のモットーに、「反省的(省察的)実践家としての教師」というアイデンティティの下で、  
**0)参加的な観察を中核とする統合的なアセスメントにより子どもたちを理解し(みまもる)、**

## 学校教育相談の再定義

- 1) すべての子どもが持っている**創造力(クリエイティビティ)**と**自己回復力(レジリエンス)**とに*ていねい*にかかわり(「関わる」, 狭義のカウンセリングのみではなく、構成的グループ・エンカウンター等のグループ・ワークやソーシャル・スキル・トレーニング等の心理教育も含め、さらに、そうした直接的なかわりをチームとして支える作戦会議等をいう)
- 2) 早急な対応が必要な一部の子どもとしのぎ(「凌ぐ」, 危機介入や論理療法等も含む初期対応等をいう)。
- 3) 問題等が顕在化している特定の子どもをつなげ(「繋げる」, 学校内外の機関等との作戦会議を土台とする連携・協働等を言う)。

## 学校教育相談の再定義

- 4) すべての子どもが**これからの人生を豊に生き抜くために、もっと逞しく成長・発達し、**社会に向かって巣立っていけるように、学校という時空間をたがやす(「耕す」, 学校づくりのことをいう)。  
**教育相談コーディネーター**教師(特別支援教育コーディネーターを包含する)を中核とするチームによる組織的系統的な指導・援助活動(指授)である。  
(追加個所→「反省的(省察的)実践家としての教師」、創造力(クリエイティビリティ)と自己回復力(レジリエンス)とに*ていねい*に、これからの人生を豊に生き抜くために、教育相談コーディネーター(教師特別支援教育コーディネーターを包含する)を中核とする)、①参加的な観察を中核とする統合的なアセスメントにより子どもたちを理解し(みまもる)、を増補)

## 教育相談コーディネーター

- Ligon, M. G. & McDaniel, S. W. 1970 The teacher's role in counseling→学校カウンセラーは、カウンセラー、コンサルタント、コーディネーターとして学校に貢献する
- カウンセラー→School Counseling Services by Teachers in Japanとして理論化(大野精一)
- コンサルタント→作戦会議として精緻化(石隈利紀)
- コーディネーター→いくつかの先駆的な実践記録等しかない状況(原田正文らの大阪府で実践)
- 今西一仁らによる高知県(出前型)と佐藤一也らによる岩手県(センター型)の注目すべき実践

## 大野のコーディネーター論(1985)

- 出典:大野精一 1985 教育相談の役割と仕事を見直す(小泉英二との対談) 月刊生徒指導、10月号、14-31に掲載した大野作成の付表「文献から見た「相談係」の仕事(役割分担)」
- 相談係の仕事(役割)教育相談【追加:広義のコーディネーター】教育相談(カウンセリング・ガイダンス)活動、コンサルティング(助言・協力)活動、**コーディネーティング(調整)活動**、計画立案、検査・調査の実施、資料整備・データ活用、研修会・事例研究会の企画と推進、情報提供活動、広報活動、相談室の管理・運営、評価、その他の活動
- コーディネーティング(調整)活動**【追加:狭義のコーディネーター】関係機関との連絡(紹介) 他の校務分掌の係との連絡、相互の理解と協力 外部専門機関との連絡・紹介 校外の諸機関・組織との渉外連絡 専門機関との連携 各種の紹介活動の展開 教育相談に関する諸問題について生徒指導部長と協力して問題解決にあたる

## 地域福祉コーディネーターに学ぶ

- ・ 出典：区市町村社協における地域福祉コーディネーターの必要性と養成について—地域福祉コーディネーター養成等検討委員会報告書、東京都社会福祉協議会、平成23年12月刊
- ・ ①個別支援(気づく、把握する、アセスメント、計画する、支援する)主にマイクロレベルの支援(②との連続性)
- ・ ②地域の生活支援システムづくり(広げる、働きかける、形づくる、支援する)主にメソレベルでの役割(①と③との連続性)→**学校での支援システムづくり**
- ・ ③地域では解決し得ない問題を解決していく仕組みづくり(抽出する、協議する、システム化)主にマクロレベルの役割(①と②との連続性)→**学校では解決し得ない問題を解決していく仕組みづくり**

## Coordinationという概念

- ・ John Rawls 1971 A Theory of Justice: Original Edition, Belknap Press of Harvard University Press. ジョン・ロールズ(川本隆史;福間聡;神島裕子訳) 2010『正義論 改訂版』紀伊國屋書店
- ・ 「(「**協調性**coordination)という問題について言うと)諸個人の活動が相互に両立可能でかつ誰の<正統な予期 legitimate expectation>をも深刻に裏切る **severely disappointed**ことなくそれらの全活動が完遂されるよう、個人の計画をお互いに適合させ合う必要がある。」(p. 6;9頁)
- ・ <正統な予期 legitimate expectation>→<正当な予期・期待>、<妥当な lawful 予期・期待>、<筋道の通った無理のない reasonable 予期・期待>
- ・ 中世ラテン語 coordinatus→整理する、順序正しく配置する
- ・ Coordinate: 同等の、同格の、対等の equal

## 教育相談コーディネーター(学校心理士)とは

- ・ 学校心理士の資格は有するが、しかしあくまでも教育実践として「教育相談コーディネーター」の役割を担える教師
- ・ センター研修を教師である自らの中に各自が統合し、これから先、各学校で人的物的な諸資源を結びつける触媒として実践しながらさらに鍛えられていく教師
- ・ この事業では言う「教育相談コーディネーター(学校心理士)の育成」とは、リカレントな教師教育の一環であり、教師から離れて「教育相談コーディネーター(学校心理士)」という独立した専門職を目指すものではない。
- ・ これについては大学院レベルでも現時点では難しく、また教職大学院等で行えるかどうか
- ・ **各地の実践的な取り組みが先行している**